

小委員会の終了報告

既設構造物の耐震補強に関する研究小委員会

1．活動経過

本小委員会は平成11年8月に発足し、平成13年度までの3年間の活動を行った。平成11年8月24日の第1回小委員会を開催し、平成14年2月27日までに合計6回の小委員会を開催した。小委員会の活動に際しては研究項目を4つに分け、それぞれ以下の4つのWGで調査研究を実施した。各WGの調査研究の結果は小委員会に報告、議論するとともに、WG間の調整を実施した。

4つのWGの研究テーマと主査は以下の通りである。

WG1：補強優先度ワーキング（主査：杉田秀樹・村越 潤）

WG2：耐震診断ワーキング（主査：福井次郎）

WG3：耐震補強工法及び補強設計法ワーキング（主査：平岡良彦）

WG4：長大橋補強ワーキング（主査：大塚久哲）

2．研究成果

WG1では、土木構造物の耐震補強優先度評価について、土木学会提言（1次～3次）に示される考え方を具体化し、実務者の視点から適用可能な評価手法を明らかにすることを目的として、道路橋を対象とした補強優先度の意志決定の現状及び問題意識の論点の整理および補強優先度評価に関する文献収集・整理を行うとともに、補強優先度評価の具体的手順と方法論を整理した。

WG2では、既設構造物における現行の耐震診断の実施方法および診断技術を踏まえて、今後の診断方法あるいは診断技術の方向性を明らかにすることを目的として、既設橋梁の耐震診断技術に関する文献の収集・整理とともに、公共機関に対する実態調査から既設橋梁の耐震診断方法に関わる課題を整理した。

WG3では、現行の耐震補強工法及び補強設計法の適用性を踏まえた新たな技術開発の方向性を明らかにすることを目的として、「特殊条件下」、「全体系」および「新材料・新工法」の3つ視点から、既設橋梁の耐震補強法・補強設計法に関する文献の収集・整理とともに、公共機関に対する既設橋梁の耐震補強実績／補強計画に関する実態調査から今後の耐震補強の方向性を整理した。

WG4では、長大橋の効果的な補強技術を明らかにすることを目的として、長大橋の耐震補強検討例・施工事例に関する文献の収集・整理とともに、長大橋耐震解析と補強法の現状および長大橋耐震補強技術の実際を整理し、今後の長大橋の耐震補強のための耐震診断および補強技術の適用、研究開発のための基礎資料を提示した。

3．研究成果の公表

上記のWGの研究成果は最終報告書として現在とりまとめ中であり、これに加えて関連研究の募集論文により、「既設構造物の耐震補強に関するシンポジウム」を平成14年11月に開催する予定である。